

持続可能な小学校教科担任制へ (教科分担制 / 教科担当制)

沼津市教育委員会 学校教育課

- 1 導入の背景
- 2 沼津市の実施状況
- 3 成果と課題
- 4 持続可能な小学校教科担任制へ
- 5 今後の方向性



Proud NUMAZU

1

- 1 導入の背景
- 2 沼津市の実施状況
- 3 成果と課題
- 4 持続可能な小学校教科担任制へ
- 5 今後の方向性

小学校高学年における教科担任制の推進 ～義務教育9年間を見通した指導体制の構築～

中央教育審議会答申における考え方

- 学習が高度化する小学校高学年では、系統的な指導による中学校への円滑な接続。
- ICTの効果的な活用とあいまって、教科指導の専門性を持った教師によるきめ細やかな指導を可能とする教科担任制の導入により、授業の質の向上を図り、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る。
- 教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校教育活動の充実や教師の負担軽減に資する。



小学校高学年からの教科担任制を令和4年度から本格的に導入

2

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現(答申)～ 令和3年1月26日 中央教育審議会

3

有識者会議の報告の概要

○各地域・学校の実情に応じた取組が可能となるような**定数措置により、特定教科における教科担任制の推進(専科指導の充実)を図る**ことを中心に考えるべき。

○教科指導の専門性をもった教師によるきめ細やかな指導と中学校の学びに繋がる系統的な指導の充実を図る観点から、**外国語、理科、算数、及び体育について優先的に専科指導の対象**とすべき教科とすることが適当。

○学校規模(学級数)や地理的条件に応じ、**学級担任間の授業交換や小規模交換の小小・小中連携、義務教育学校化**などを促すことにより対応することも考えられる。

前倒しにより、令和6年には定数改善完了。

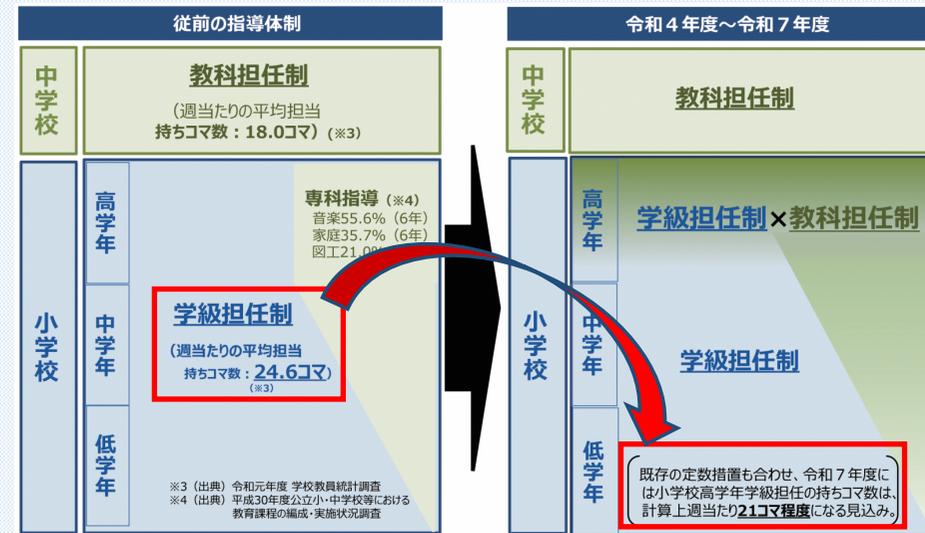
令和4年度から4年程度をかけて段階的に取組を推進し、定数改善総数3800人程度

義務教育9年間を見通した指導体制の在り方に関する検討会議 義務教育9年間を見通した教科担任制について(報告) 令和3年7月 中央教育審議会

4



指導体制の変化



5

期待される効果

○教材研究の深化、専門性を持つ教師の熟練した指導による**授業の質向上**

○**小中学校間**の円滑な接続(中1ギャップの解消等)

○複数教師による**多面的な児童理解**

○教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化等による**教師の負担軽減**

6

1 導入の背景

2 沼津市の実施状況

3 成果と課題

4 持続可能な小学校教科担任制へ

5 今後の方向性

7

令和6年度 沼津市立小学校 教科担任制の実施状況①

令和6年度『小学校における教科担任制』に関する状況調査

問1 『教科等の担任制』の実施状況（令和6年5月1日現在）

	国語	書写	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	外国語	未実施
第1学年	0	30		9		0	17	9		22		43
第2学年	4	61		13		0	52	43		35		4
第3学年	0	61	30	22	57		91	52		26	65	0
第4学年	9	52	43	26	83		100	70		39	70	0
第5学年	22	52	52	39	83		91	57	74	52	70	0
第6学年	30	52	61	30	78		91	57	78	52	74	0

※ 上記表は、沼津市内小学校23校の学年、教科ごとの実施状況を示している。

※ これは専科指導を実施している教科の調査であり、以下のような多様な形態を含む。

- ・複数の教師が協力して行う指導（TT）で実施するもの。
- ・非常勤講師が実施するもの。
- ・教員の得意分野を生かして実施するもの。
- ・中学校、高等学校の教員が兼務して実施するもの。

「東教地第150号 令和6年5月22日 令和6年度『小学校における教科担任制等』の状況調査について」のデータを矢川が独自に分析

8

令和6年度 沼津市立小学校 教科担任制の実施状況②

令和6年度『小学校における教科担任制』に関する状況調査

問2 教科担任制を実施している教科の「実施方法」について

	第5学年				第6学年				備考
	算数	理科	体育	外国語	算数	理科	体育	外国語	
a 加配教員が実施	2	3	2	2	1	2	2	3	【加配】小専発展 教科担任推進
b 得意分野を生かして実施	5	13	8	12	6	9	8	10	
c 中学校教員が兼務して実施	2	0	3	2	1	3	3	4	小中一貫校における小中兼務 中学校からの乗り入れ授業の実施
d 非常勤講師が実施	0	1	0	0	0	2	0	0	【加配】小規模小学校 理科専科/主幹後補充等
e その他	1	3	0	1	1	3	0	1	

【a・d】 加配・非常勤講師の有効的な活用

【b】 各教員の強み(得意分野)を生かした実施

【c】 小中一貫教育を意識した小中連携、施設一体型の強みを活用した実施

「東教地第150号 令和6年5月22日 令和6年度『小学校における教科担任制等』の状況調査について」のデータを矢川が独自に分析

9

令和6年度 沼津市立小学校 教科担任制の実施状況③

対象教科

- ① **5教科中心型**（国語、算数、理科、社会、英語）
→主要教科における得意分野(教師の専門性)を生かした指導。
- ② **技能教科中心型**（図工、音楽、家庭科、体育）
→従来の専科指導を生かした指導。
- ③ **学校指定の特定教科型**（例…国語・算数を除く教科）
→基幹教科である国語・算数は担任。担任がクラスに関わる時間確保。
- ④ **担任間による交換可能な教科型**
→得意・不得意という個々の教員の特徴を生かした指導。
- ⑤ **専科指導型**
→小学校専科加配等を活用（例…英語、理科、算数、体育、等）

令和6年度 沼津市立小学校 23校 時間割より、教科担任制の類型を矢川が独自に分析

10

令和6年度 沼津市立小学校 教科担任制の実施状況④

指導教科

- ① **単一教科を指導**
○教師の専門性を最大限生かす。(中学校免許の教科/得意分野)
- ② **複数教科を指導**
○これまでの指導経験を生かし、教師の得意な教科を生かした指導。
→クラス数により3教科から5教科程度を担当。

指導範囲

- ① **学年内**(学年2～5クラス規模)
- ② **学年団**(学年2クラス規模)
- ③ **学年横断**(単級規模・小中一貫校)
○中学校教員の授業の乗り入れに合わせ、小学校教師にも特定教科を割り当て、教科担任制の実施。

11

- 1 導入の背景
- 2 沼津市の実施状況
- 3 成果と課題
- 4 持続可能な小学校教科担任制へ
- 5 今後の方向性

小学校教科担任制実施の成果①

働き方改革 14校が回答

- ・担当教科数が減ることで、教材研究の時間が以前よりも短時間になり、働き方改革につながっている。(第一小、第四小、第五小、沢田小)
- ・担任の担当教科が減り、教材研究の時間が確保された(愛鷹小、原小、門池小)
- ・教材研究(1教科あたり)にかける時間が多くなり、指導しやすくなったことが働き方改革につながった(金岡小)
- ・教材研究や授業準備の負担が軽減されている(香貫小、大岡南小、原東小)
- ・教員の負担が減り、働き方改革につながる(第三小、大岡小、門池小)

※参考 小学校 時間外勤務時間の推移 4~7月の1学期間で比較



小学校教科担任制実施の成果②

専門性・得意を生かした授業 14校が回答

- ・専門性を生かすことで、児童によりよい授業を行うことができる。(第三小、浮島小、香貫小、静浦小中、長井崎小中)
- ・各教員の得意分野で指導するので質の高い授業を実施することができる。(第四小、第五小、大岡小、大平小、今沢小、沢田小、大岡南小)
- ・児童が中学校の教員から専門性の高い授業を受けることができる。(千本小)

系統性を意識した授業づくり 6校が回答

- ・同じ教員が複数学年の同教科を担当しているため、学年間のつながりを意識して指導を行うことができる。(第二小・原東小)
- ・教科の系統性を意識した指導が可能となる。(浮島小・千本小)
- ・本校は小中一貫学校であり、異学年の同一教科を担当することで、9年間で育成したい資質・能力を意識し、教科指導を行うことができている。(静浦小中)
- ・各教科の学習内容の連続性を意識した授業展開ができる。(長井崎小中)

小学校教科担任制実施の成果③

児童理解 11校が回答

- ・いろいろな教員が関わることで、多面的な児童の捉えができ、生徒指導にも組織であることができる。(第一小、第四小、大岡小、愛鷹小、大平小、香貫小、今沢小)
- ・児童の様子や実態について、学年や学級を超えて話をしたり、情報を共有したりする職員が増えた。(開北小)
- ・担当学級以外の子供に授業を通して関わることができ、子供理解が広がること。(片浜小、金岡小)
- ・学年の子供の様子を共有し、学年全体を見ることができる。(原小)

小学校教科担任制実施の成果④

中学への接続 3校が回答

- ・中学へのスタートカリキュラムとしての成果 (千本小)
- ・中学校への円滑な接続 (中1ギャップの解消) が進む (大岡小)
- ・中学校の分野とのつながりを考えた指導ができ、中学校に上がってきたときの接続がしやすい (戸田小中)

授業改善 2校が回答

- ・同内容の授業を複数学級で行うことができるため、授業の評価・改善がしやすくなった (開北小)
- ・授業実践しながら授業改善していくことができる。基準をはっきりさせて評価することができる (原小)

16

「東教地第150号 令和6年5月22日 令和6年度『小学校における教科担任制等』の状況調査について」のデータを矢川が独自に分析

小学校教科担任制の可能性

・学習指導の平準化

- 授業力、指導力のある教員の授業を広く多くの子供たちに提供することができる。
- 情報活用能力も広く学校全体で育成できる。

・教員（学級担任）の孤立防止

子供の問題行動、保護者対応等、すべて一人で対応に当たらなければならなかったことを、授業を通して複数の教員が関わることにより、子供を知ることでチームとして対応することができる。（負担感の分散）
経験の浅い若手教員への支援となり、離職を回避させる手立てともなりうる。

・学級崩壊への予防（学級王国をつくらせない）

周囲のクラスが自分のクラスよりも優れている、魅力的な取組が行われている（ように見える）等、学級間の差を子供たちが感じることににより、学級崩壊は生まれやすくなる。教科担任制（チーム担任制）を通じて、学年や学校の子供たちを教員集団全員で育てる意識をもち実践することにより、学級間の差を埋めることにつながる。

・「いじめ」「問題行動」「不登校」の未然防止

一人の子供に対して、多くの教員が関わることににより、子供に対する多様な見方が生まれることから、生徒指導上の問題に気づく機会が増える。また、子供からすると、多くの教員と関わることにより、自分が心を許すことができる先生を見つけ相談をするなど、早期対応の可能性を増やすことができる。

・不祥事防止（校内）

子供一人一人に多くの教員が関わることは、特定の教員のおかしな言動や振る舞いに子供が気付いたり、他の教員に伝えたりすることが可能となる。また、特定の教員が特定の子供と長時間いることを防ぐ。

17

小学校教科担任制実施の課題①

専門性や得意教科を生かす組み合わせの難しさ 5校が回答

- ・得意分野や学年の構成、時数などの条件が一致しないと、実施・継続することが難しい (第一小)
- ・教科の専門性に偏りがある場合、生かしきれないことがある。そのため、専門性を生かせない教員は負担を感じることもある (第五小)
- ・高学年を中心に教科担任制を行おうと試みているが、時間割を作成する段階で非常勤講師の配置や学年間での担当の入替えなど工夫が必要である (門池小)
- ・異動が教科による配置ではないため、年度ごとに教科担任が組めるかどうか見通しをもつことができない (長井崎小中,片浜小)

教師の力量形成への問題 1校が回答

- ・教員がやらない教科が増えるため、自己研修の意識がないと研修機会を失いがちである (大平小)

18

「東教地第150号 令和6年5月22日 令和6年度『小学校における教科担任制等』の状況調査について」のデータを矢川が独自に分析

小学校教科担任制実施の課題②

時間割の組み方・授業の入れ替え・補欠の困難さ 12校が回答

- ・時間割の組み方が複雑になり、出張、補欠、行事、日課変更等で授業ができなかったとき、教科で時数に偏りが生じて調整が難しい (第四小,金岡小,門池小,開北小,大岡小,愛鷹小,原小,大岡南小)
- ・教員数にゆとりがないので時間割の組み替えが難しい (浮島小,香貫小)
- ・教員数が少ないなかで教科担任を実施するため、授業担当時数にばらつきがでている (大平小)
- ・中学校と日課が違うため、時間割の変更等の事務作業が難しい (千本小)

学校規模 5校が回答

- ・小規模校だと教員の専門教科が網羅できない (浮島小,第二小)
- ・小・中規模校では担当教科を大幅に減らすことは難しく、理科では、準備・片付け、予備実験等の時間は勤務時間内に行えていない (片浜小)
- ・本校のような小規模校では、教員の数が少ないため実施が難しい (原東小)
- ・多くの学年の教材研究と異学年の学習集団の特性に合わせた単元計画や教材開発を行うことが必要であり、週時数の少ない教科担当は、大変多くの学年の担当となり、負担が大きい (静浦小中)

19

「東教地第150号 令和6年5月22日 令和6年度『小学校における教科担任制等』の状況調査について」のデータを矢川が独自に分析

小学校教科担任制実施の課題③

児童への対応・児童に関する情報共有 5校が回答

- ・担任の教員が児童と接する時間が減り、**児童のささいな変化に気づきにくくなる可能性**がある(大岡小,金岡小)
- ・授業によくない表れがあった場合、その様子を**伝え忘れ**たり、**伝える時間がな**かったりすることによって、**情報共有ができず、指導に食い違いが生じる**ことがある(今沢小)
- ・**不登校傾向にある子供への対応**が十分にできない(金岡小)
- ・**子供が多数の先生と信頼関係を築かなければならない**ので、授業を負担に感じ、学校へ足が向かないことがある(金岡小)
- ・**児童の発達段階をふまえ**、どのようにすれば、低学年での教科担任制を実現できるか検討している(第五小)
- ・算数の**宿題**など、**担任が関わって指導しづらい**。個別指導の時間を確保しにくい(原小)
- ・保護者面談で、**担当していない教科のことを伝えるために情報収集**が必要(原小)

20

「東教地第150号 令和6年5月22日 令和6年度『小学校における教科担任制等』の状況調査について」のデータを矢川が独自に分析

1 導入の背景

2 沼津市の実施状況

3 成果と課題

4 持続可能な小学校教科担任制へ

5 今後の方向性

21

沼津市内の各小学校の規模

学校の規模	学級数	学校名	学校数
～ 6学級	単級規模	第二小、千本小、大平小 静浦小中、長井崎小中、戸田小中	6校 (小中一貫 3校)
7～12学級	学年1～2学級	第一小、第三小、第五小、開北小、 片浜小、浮島小、沢田小、原東小、今沢小	9校
13～18学級	学年2～3学級	第四小、大岡小、愛鷹小、原小、 香貫小、大岡南小	6校
19～24学級	学年3～4学級	金岡小	1校
25～ 学級	学年4～ 学級	門池小	1校



- ・学校規模が異なるため、同様な方法において一律に教科担任制を行うことは難しい。
→各学校の**規模、実情に合わせた小学校教科担任制を創り上げていくこと**が重要である。

22

令和6年度5月調データをもとに作成。普通学級のみで学級数をカウント

持続可能な小学校教科担任制への懸念点

▲中学校と同様な教科担任制を実施することは困難

- ・中学校とは教職員定数の算定基準が異なります。空きのある教員は、中学校ほどいません。
→中学校のように複雑な時間割を組むと、補欠等の対応が困難になりがちです。
- ・教員の配置は免許や得意教科を考慮して行われていません。
→専門・得意教科が偏ることは、当然あります。

▲小学校教員のポリバレント性を大切に

- ・小学校に特定の教科しか指導できない教員ばかりになってしまったら、学校運営は成り立たなくなります。専門性や得意分野を生かした指導は大切にしたいところですが、それだけを重視すると10年後、20年後、どのような状態になるかは明白です。
→あくまで小学校教員ですから、3～5教科は指導可能な状態にしたいところですが、特に現在の20代、これから採用される教員については、指導機会を確保することが大切です。

▲教員の価値観の転換の必要性(小学校文化の再構築)

- ・担任する学級の子供だけを見ているのではなく、学年・学校の教員と連携を図り、共同歩調で子供を指導することはできないでしょうか？(脱学級王国)
- ・宿題は担任がすべてを見なければいけないのでしょうか？必ずしも担任の見取りが必要なのでしょうか？
- ・指導時数は全教員が一律、同じでなければならないのでしょうか？

23

持続可能な小学校教科担任制への提案①

○専科指導ではなく、担任間の授業交換を中心とした教科担任制

- ・指導する教科数が減ることは、教材研究の効率化、授業準備時間の短縮につながることは各校の成果からも明らかである。
- ・全教科を専科性にするには、教員の配置、人数、時間割の複雑さ等を考えれば、運用上困難となる。
- ・現状、定数の増加は見込めないことから、大幅な持ち時数の減少は望めない。

(例1) 5年時間割 2クラス

	1組(教員A) 【21.5】4教科	2組(教員B) 【22.5】3教科
国語科【4.5】	教員A	教員A
算数科【5】	教員B	教員B
社会科【2.5】	教員A	教員A
理科【3】	教員B	教員B
外国語科【2】 (英語)	教員C	教員C
音楽科【1.5】	教員C	教員C
図工科【1.5】	教員A	教員A
家庭科【1.5】	教員B	教員B
体育科【2.5】	教員C	教員C
読解【0.5】	教員A	教員A
道徳【1】	教員A, B, Cでローテーション	

総合【1.5】、学活【1】を含む。

(例2) 5年時間割 4クラス

	1組(教員A) 【23.5】4教科	2組(教員B) 【22.5】3教科	3組(教員C) 【22.5】4教科	4組(教員D) 【21.5】3教科
国語科【4.5】	教員A	教員A	教員C	教員C
算数科【5】	教員B	教員B	教員D	教員D
社会科【2.5】	教員A	教員A	教員D	教員D
理科【3】	教員B	教員B	教員C	教員C
外国語科【2】 (英語)	教員E	教員E	教員E	教員E
音楽科【1.5】	教員A	教員A	教員C	教員C
図工科【1.5】	教員A	教員A	教員D	教員D
家庭科【1.5】	教員B	教員B	教員E	教員E
体育科【2.5】	教員E	教員E	教員E	教員E
読解【0.5】	教員E	教員E	教員C	教員C
道徳【1】	教員A, Bでローテーション		教員C, Dでローテーション	

総合【1.5】、学活【1】を含む。

24

持続可能な小学校教科担任制への提案②

○小中一貫教育をねらいとした中学校教員の積極的な乗り入れ

- ・小規模小学校では教職員定数の関係上、**担当時数が多くなる傾向**がある。
- ・小規模中学校では免外解消非常勤講師が入ることもあり、担当時数が少なくなる傾向がある。

◎施設一体型小中一貫校では、4-3-2制ということもあるが、**中学校籍の教員が小学校相当の授業を担当**することにより、**小学校籍教員の担当時数を減らす**ことに成功している。

- 専門性を生かした授業
- 系統性を意識した授業づくり

さらに、上記2点についても、中学校教員が乗り入れて授業を行うことの結果としてあげられている。

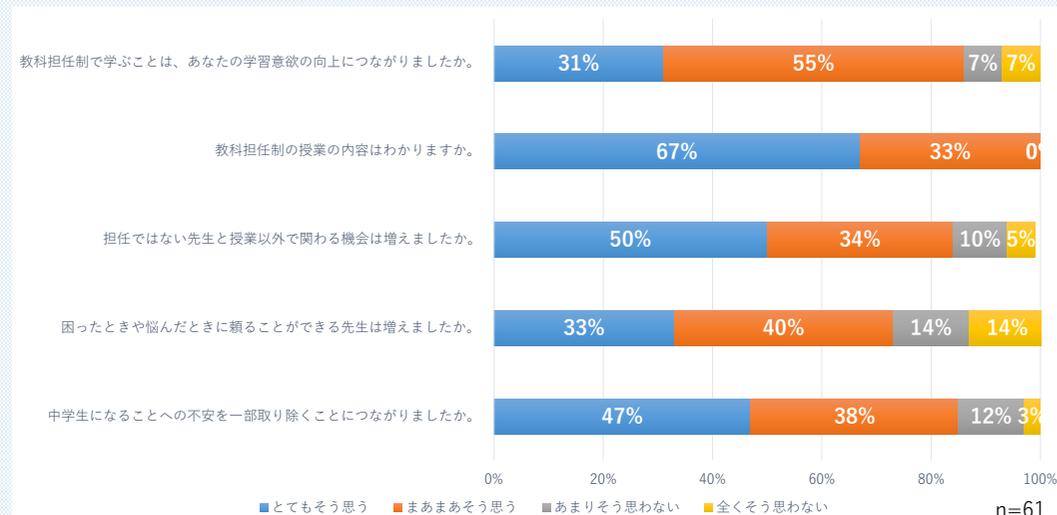
◎施設分離型小中一貫校においても、兼務発令をかけることにより、**中学校教員が積極的に小学校の授業に乗り入れる**ことを推奨する。(特に小規模な小・中学校間)

現在の実施校

- 第一中 → 第一小(英語科・音楽科)
- 第二中 → 千本小(英語科・音楽科)
- 大平中 → 大平小(音楽科)
- 浮島中 → 浮島小(社会科)

25

教科担任制導入による子供たちの声 ①



26

令和5年2月 香貴小6年生(教科担任制導入1年目)を対象にアンケート調査を実施。

教科担任制導入による子供たちの声 ②



- ・色々な先生の**話が聞ける**からとても楽しい。
- ・色々な先生と**話しやすくなり、先生を知る**ことができる。

- ・先生**それぞれの教え方**があって、色々な方向から**物事を考えられる**。
- ・担任ではない先生と**仲良くなれる**。
- ・先生の**教え方や性格**がわかる。



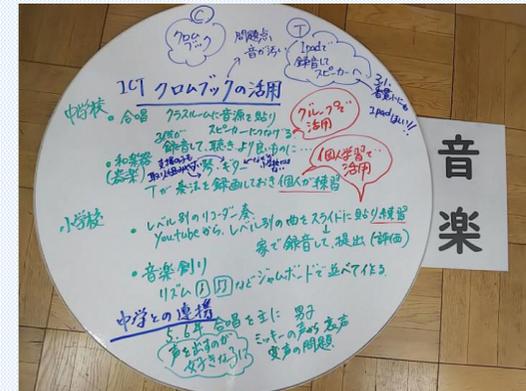
27

令和5年2月 香貴小6年生(教科担任制導入1年目)を対象にアンケート調査を実施。

- 本日の流れ
- 1 小学校高学年教科担任制導入の経緯
 - ① 小学校高学年における教科担任制の推進 ~中教審答申から~
 - ② 先進校の取り組みについて ~文科省事例集から~
 - ③ 香貫小の取り組み
 - 2 教科担任制に関するアンケート調査結果について
 - 3 教科別グループ討議(50分※休憩を含む)
 - 4 グループ討議内容の共有(2分×9)
 - 5 リフレクション(個人/フォームに回答)

- 3 教科別グループ討議(50分)
- 討議テーマ
- ① アンケート結果、普段の実践から
 - ② 教科におけるChromebookの活用について
 - ③ 各教科の評価について (評価方法、評価規準)
- グループで討議したい内容を付箋に書いてみましょう。

教科別グループ討議の成果物



音楽



令和5年7月27日 第三中にて「小学校教科担任制」をテーマに研修会を実施。



・小学校から中学校へのつながりについて知りたいことを話し合うことができました。小学校と中学校の子どもたちが扱う教材や、重きを置く単元、内容、扱う楽器にかなりの差があることがわかり、このような話し合いはとても効果的だと思う。たくさんのクロムブックの活用の仕方を知る事ができたのもよかったです。(小学校教員)

・三校で同じ教科について話し合うことがとても新鮮でした。具体的な題材について話したり、子供の様子や授業の実態をもとに話し合えたのが良かったです。香貫小、三小の家庭科を担当している先生方4人で、クラスルームを作成する話になったので、早速やってみたいと思います。2校の足並みが揃うことで、中学校に進学した際に、ギャップが小さくなるのではと思います。まずは、やってみます!(小学校教員)



・教科ごとの研修で、小学校中学校同士が互いに何を求めているのかがはっきりした。小学校からの積み重ねの部分が見えてきたので今後の指導に活かしていきたい。また、定着という部分で小学生の先生方の手立てから学ぶものが多くあってよかった。(中学校教員)

	専門	自信	クラス	所属学年	異学年			
国語	1	5	27	96%	17	61%	7	25%
書写	0	7	21	75%	24	86%	15	54%
社会	6	8	22	79%	17	61%	12	43%
算数	3	11	25	89%	23	82%	11	39%
理科	2	5	19	68%	12	43%	10	36%
英語	4	3	15	54%	12	43%	6	21%
図工	0	6	23	82%	21	75%	10	36%
音楽	2	4	12	43%	11	39%	9	32%
体育	3	6	21	75%	15	54%	11	39%
家庭	0	4	20	71%	12	43%	10	36%
言語読解	0	0	24	86%	17	61%	8	29%
その他	1	1						
専門なし	9	0						

・専門は専門教科(中・高の免許保持等)、“自信”は専門ではないがこれまでの研修を通して該当教科における指導に自信をもっている教員数を示している。
 ・“クラス”、“所属学年”、“異学年”はそれぞれの範囲において各教科の指導が可能かどうかを訊ね、割合で示した。80%以上を赤、50%以下を青で表している。

◇これまでの指導の経験から、学級担任として自身のクラスであれば多様な教科に対応できるといえる。

◆しかし、学級担任としても音楽や英語には指導に不安を抱える教員が多い。

◆学級担任として自身のクラスに対する指導であっても、すべての教科に対して十分に指導できる力量があると自負する教員は多くない。

◇専門教科には偏りがあるが、自信のある教科を含めると、先生方の指導可能な教科は幅広いといえる。

◆学年をまたいだ指導となると、自信をもって指導できる割合はかなり低下する。これは小学校教員として教科の専門性よりも学級経営を中心とした授業づくりを行ってきたためだと考えられる。

◇所属学年であれば学級経営の延長線上と捉えやすいため、異学年よりも指導がしやすいことが推察される。

- 1 導入の背景
- 2 沼津市の実施状況
- 3 成果と課題
- 4 持続可能な小学校教科担任制へ
- 5 今後の方向性

今後の方向性

〈持続可能な教職員指導体制の構築〉

学びの質の向上と教師の持ち時数の軽減のため、
高学年に加え、**小学校中学年についても教科担任制を推進**し、専科指導のための定数改善が必要。

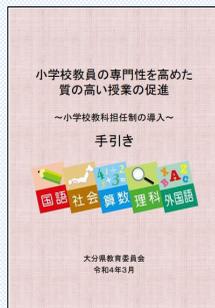
令和7年度 概算要求では、小学校における教科担任制の拡充 +2160人
 ・中学年についての教科担任制を推進 +1750人
 ・新規採用教師の持ち授業時数軽減のため、教科担任制を推進 +410人
 ※4年間で計画的に実施

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について
 ～全ての子どもたちへのよりよい教育の実現を目指した、学びの専門職としての「働きやすさ」と「働きがい」の両立に向けて～（答申） 令和6年8月27日 中央教育審議会
https://www.mext.go.jp/content/20240827-mxt_zaimu-000037727_01.pdf
https://www.mext.go.jp/content/20240827-mxt_zaimu-000037727_02.pdf 【概要版】

32

33

参考資料



【参考資料】

小学校高学年における教科担任制に関する事例集 小学校教育の活性に繋げるために [文部科学省 令和5年3月]
https://www.mext.go.jp/content/20230310-mext_zaimu-000027939_1.pdf

小学校教員の専門性を高めた質の高い授業の促進 ～小学校教科担任制導入の手引き～ [大分県教育委員会 令和4年3月]
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2136871.pdf>

34